

はじめに

この報告は、大阪府環境基本条例第9条の規定により、**2014**年度（平成**26**年度）における環境の状況並びに豊かな環境の保全及び創造に関して本府が講じた施策を、**2011**年3月に策定した「大阪21世紀の新環境総合計画」（以下「新環境総合計画」という。）の施策体系に沿ってとりまとめたものです。

2014年度の府内の環境の状況については、大気環境では光化学オキシダント、微小粒子状物質（**PM2.5**）は環境保全目標を達成していませんが、二酸化窒素濃度をはじめ長期的に見て改善傾向にあります。また、河川の汚濁指標である**BOD**については、環境保全目標を達成できていない水域が一部残っていますが、引き続き改善傾向にあります。

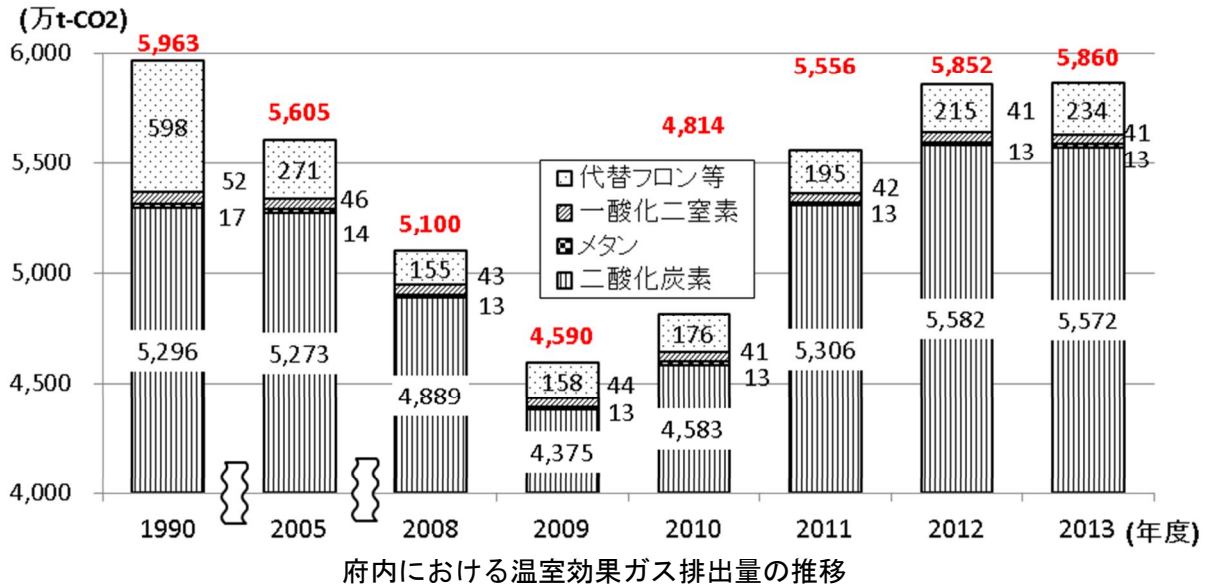
本府といたしましては、環境保全目標の達成・維持に向け、自動車 **NOx**・**PM** 法の排出基準を満たさないトラック・バス等の流入車対策等による大気汚染物質の排出削減や、微小粒子状物質（**PM2.5**）の現状把握と的確な注意喚起の実施のほか、河川等の水質保全対策として、事業者に対する規制指導や生活排水対策にかかる普及啓発等の取組などを実施しました。また、おおさかスマートエネルギーセンターの運営をはじめとして、新たなエネルギー社会の構築に向けた検討や支援事業、循環型社会推進計画に基づく **3R** の推進、産業廃棄物の適正処理の徹底に向けた取り組み等、様々な施策を実施しました。

一方で、府は、事業者としての立場も有していることから、府民や事業者、民間団体などすべての主体の模範となるよう環境に配慮した率先行動を拡大します。また、新環境総合計画を実効あるものとするため、環境の保全に関する基本的事項の審議などを行う「大阪府環境審議会」等を活用し、**PDCA** サイクルによって計画の適切な進行管理を行っていきます。

序章 おおさかの環境の状況

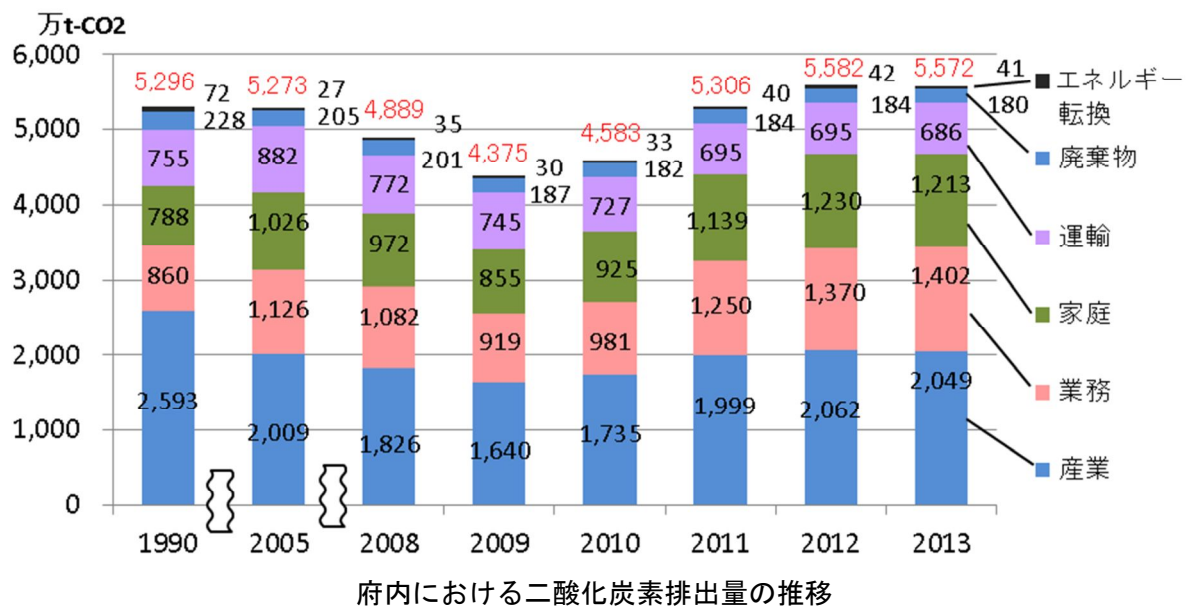
1 低炭素・省エネルギー関係

○温室効果ガスの排出量については、2013年度は5,860万トンであり、2012年度と比べ0.1%増加しており、基準年度（2005年度）の5,605万トンと比べ4.6%増加しています。

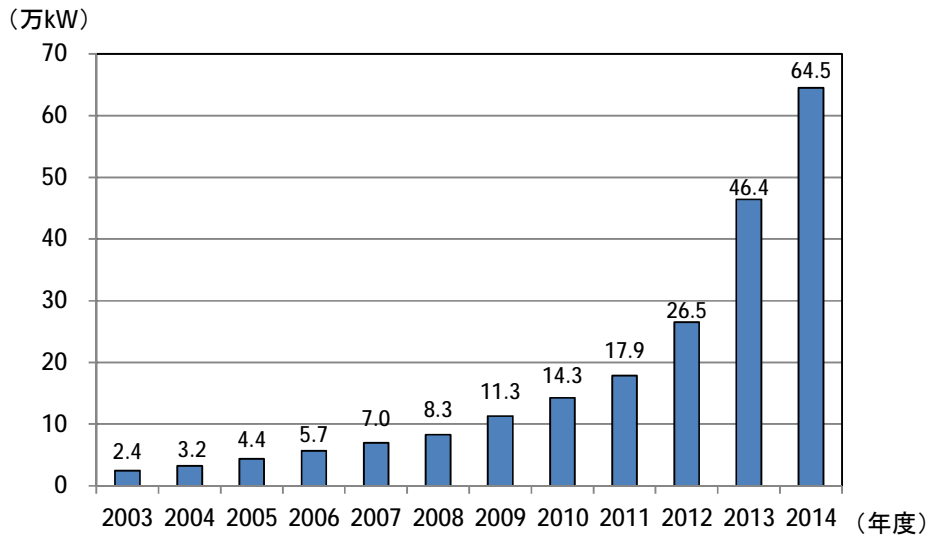


※地球温暖化係数などの見直しに伴い、今年度実施した推計では過去の推計値も遡って修正しています。

○二酸化炭素の排出量については、2013年度は5,572万トンであり、基準年度（2005年度）の5,273万トンと比べ、5.7%増加しています。基準年度と比較すると、運輸部門及び、廃棄物部門は減少していますが、産業部門や、民生（業務）、民生（家庭）、エネルギー転換部門は増加しています。

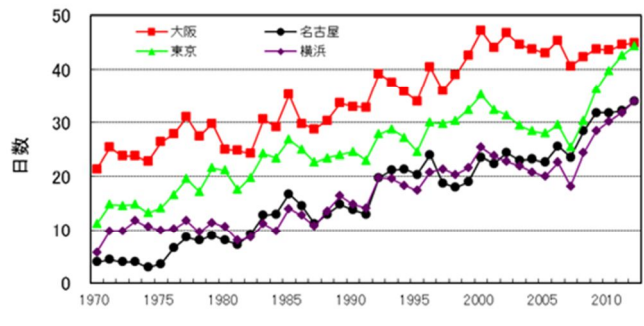
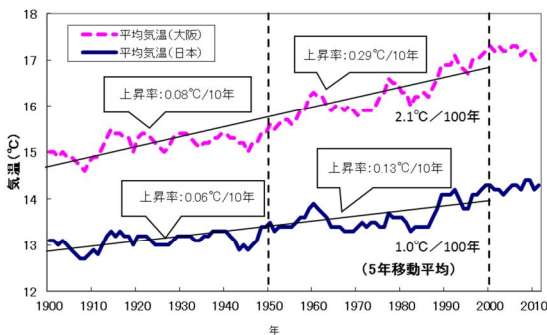


○太陽光発電設備の導入状況については、2014年度は64.5万kWであり、2013年度の46.4万kWと比較し、39.0%増加しています。



府内における太陽光発電設備の導入状況の推移

○年平均気温は、全国の年平均気温を上回る状況で推移しています。熱帯夜数は、大阪府ヒートアイランド対策推進計画で基準年としている2000年と比べ、2012年では2日減少しています。真夏日数については、近年80日前後で推移しています。

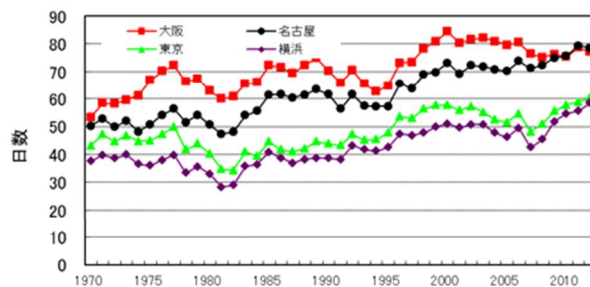


(出典:1968年から2014年の各管区気象台データより作成)

年 (5年移動平均)

大阪・全国における年平均気温の推移

大都市における熱帯夜数



(出典:1968年から2014年の各管区気象台データより作成)

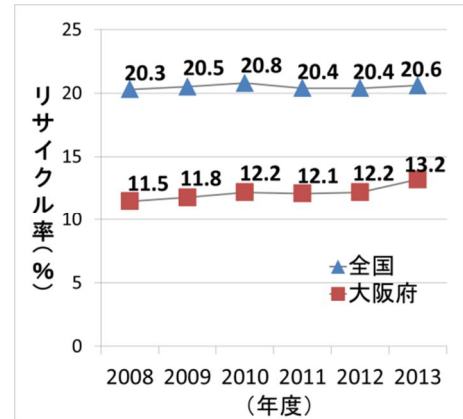
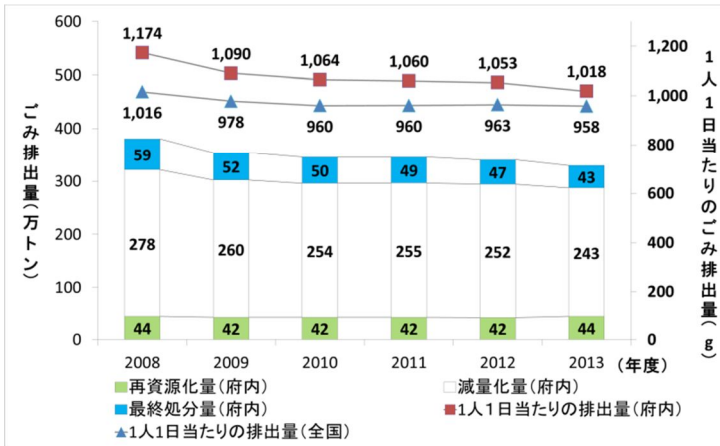
年 (5年移動平均)

大都市における真夏日数

2 循環型社会関係

○2013年度の1人1日当たりのごみ排出量は1,018g/人・日となっており、2008年度と比べ13%減少しています。

○2013年度のリサイクル率は2008年より1.7ポイント上昇し、13.2%となっています。

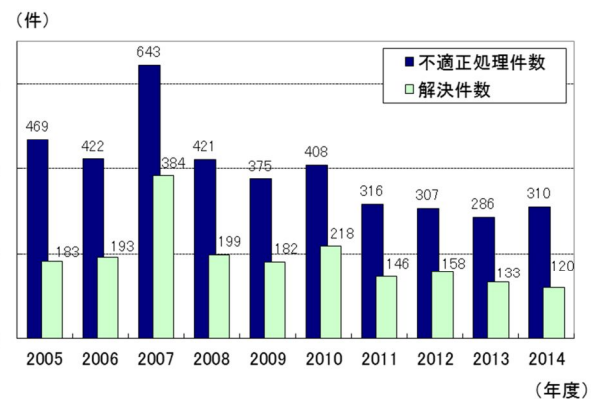
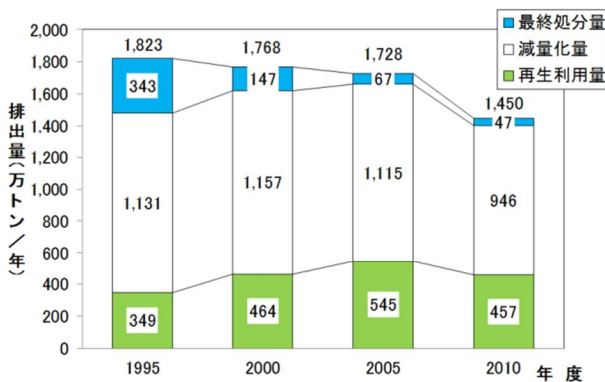


※1人1日当たりの排出量は外国人を含む人口を元に算出

一般廃棄物排出量の推移

リサイクル率の推移

○産業廃棄物については、2010年度の最終処分量は47万トンであり、2005年度と比べ30%減少しています。また、不法投棄等の不適正処理の件数は減少傾向にあります。



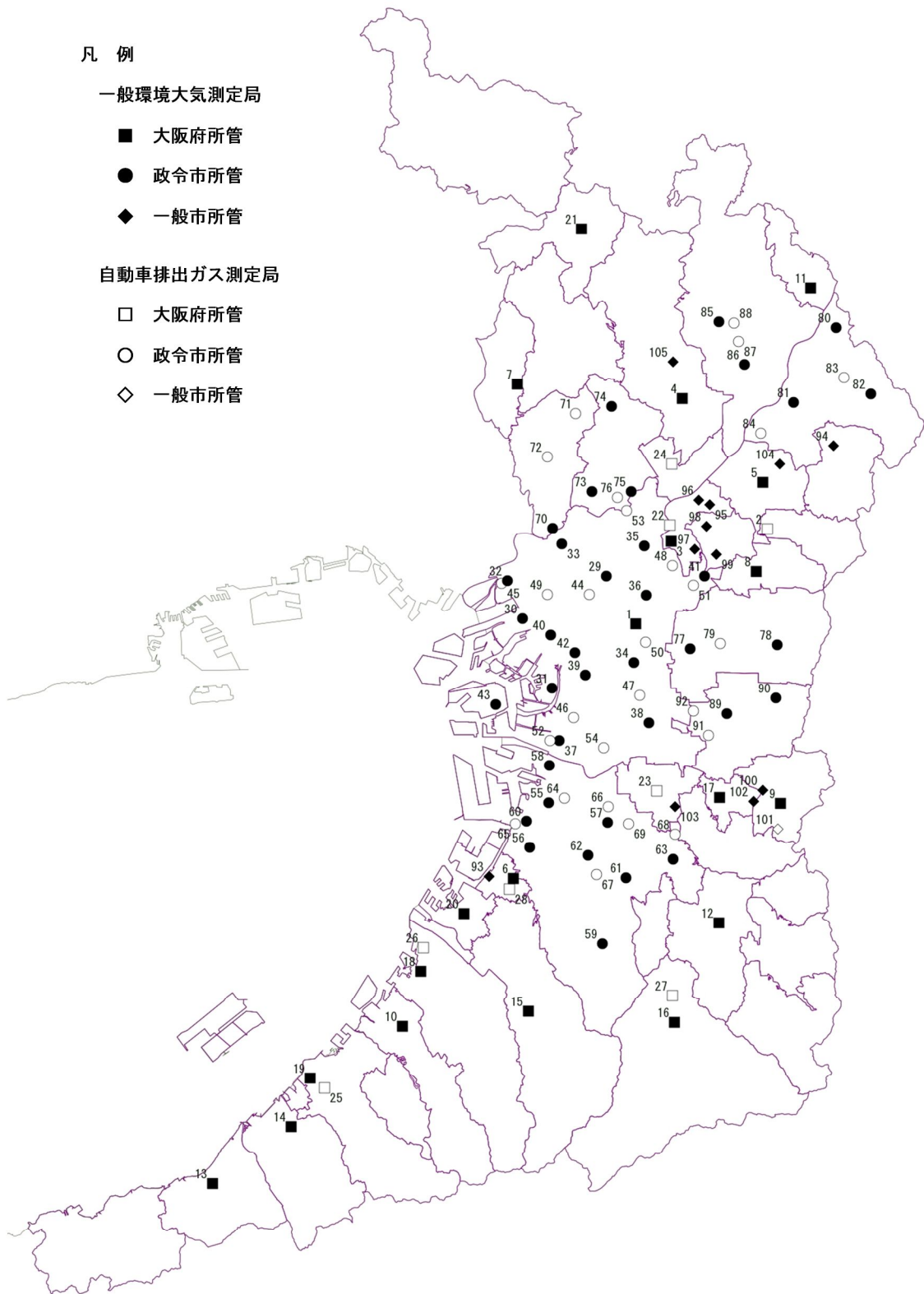
産業廃棄物の最終処分量等の推移

産業廃棄物の不適正処理件数

注) 四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

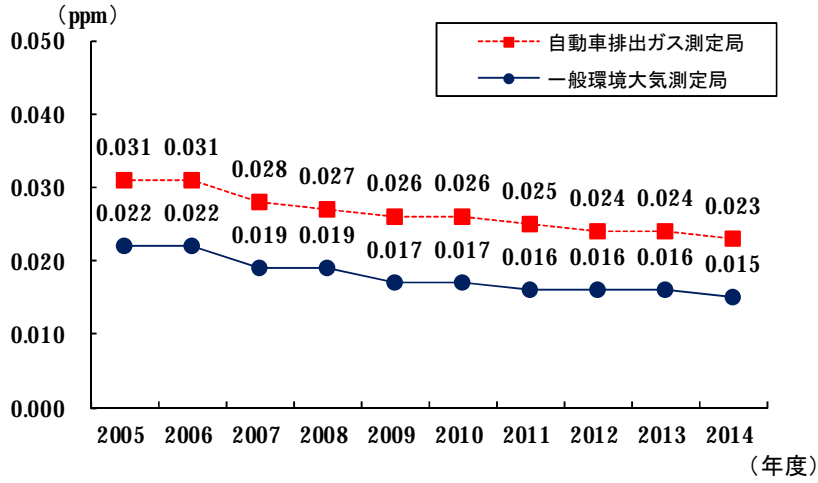
3 大気環境関係

一般環境大気測定局 69 局、自動車排出ガス測定局 36 局で大気調査を行いました。

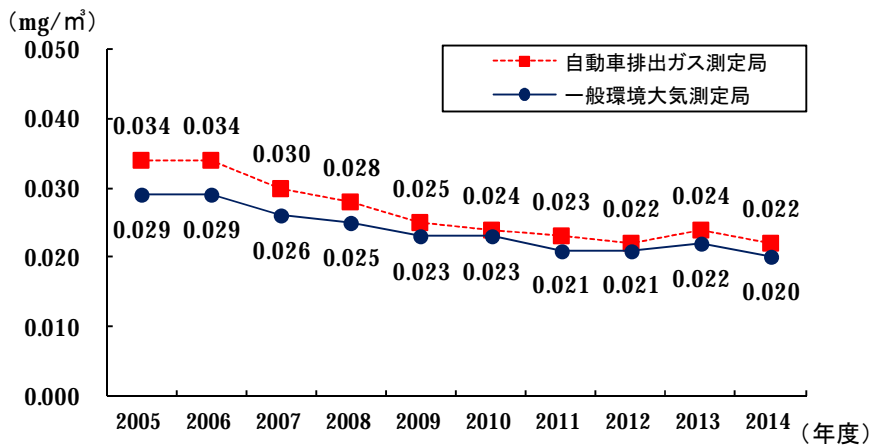


大気の常時監視地点図

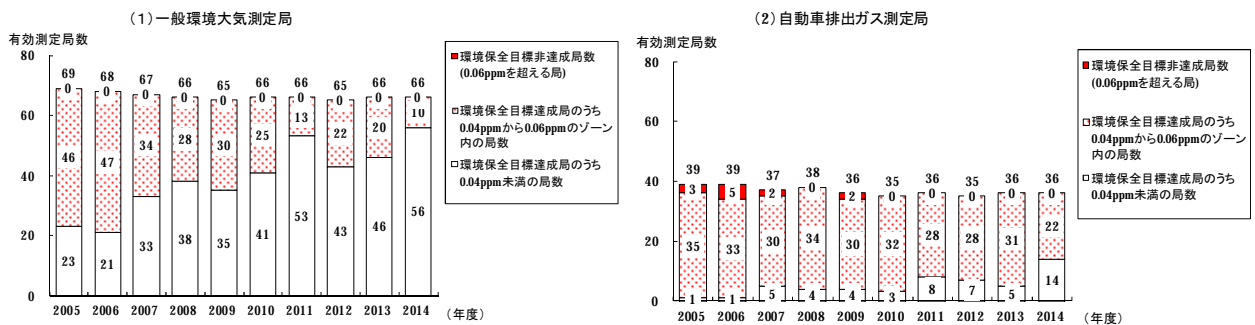
○二酸化窒素と浮遊粒子状物質の濃度については、長期的には改善傾向で推移しています。2014年度は、二酸化窒素は102局全局で、浮遊粒子状物質は101局全局で、それぞれ環境保全目標を達成しました。



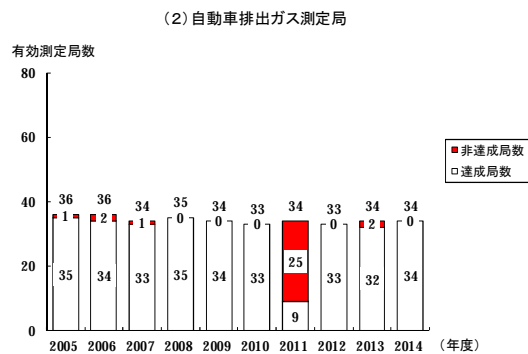
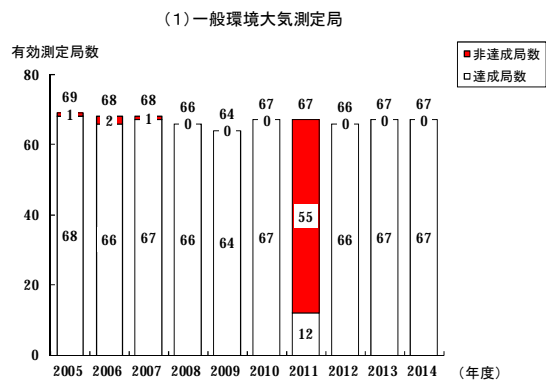
二酸化窒素濃度 (年平均値) の推移



浮遊粒子状物質濃度 (年平均値) の推移



二酸化窒素の環境保全目標達成局数の推移

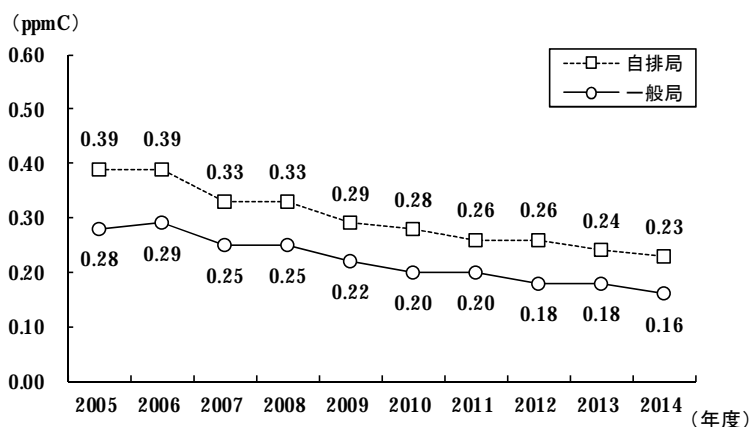


浮遊粒子状物質の環境保全目標達成局数の推移

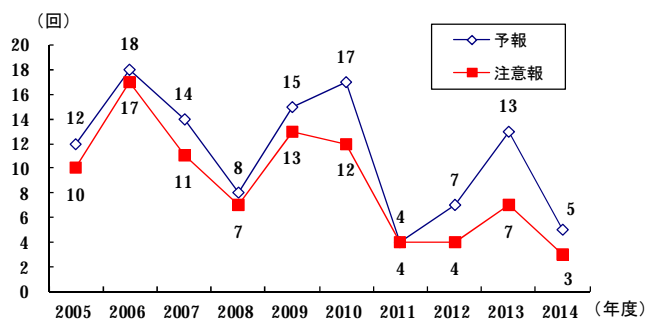
○光化学オキシダントについては、2014年度は、69局全局で環境保全目標を達成しませんでした。

光化学オキシダントの要因物質である非メタン炭化水素の年平均濃度については、改善傾向で推移しています。

光化学スモッグ注意報の発令回数は、年度による変動が大きく、増減を繰り返しています。



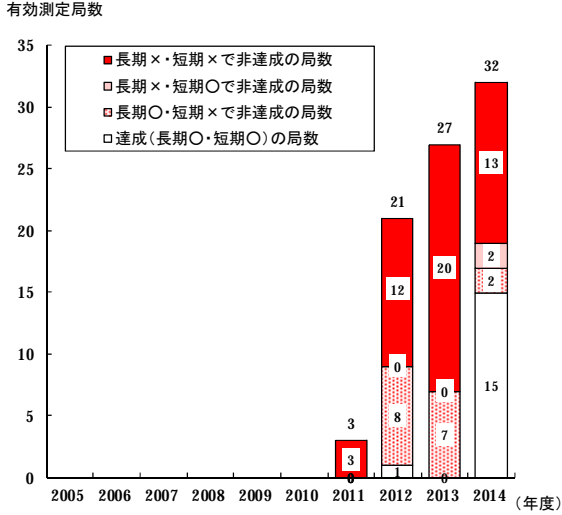
非メタン炭化水素濃度の推移 (午前6時から午前9時の年平均値)



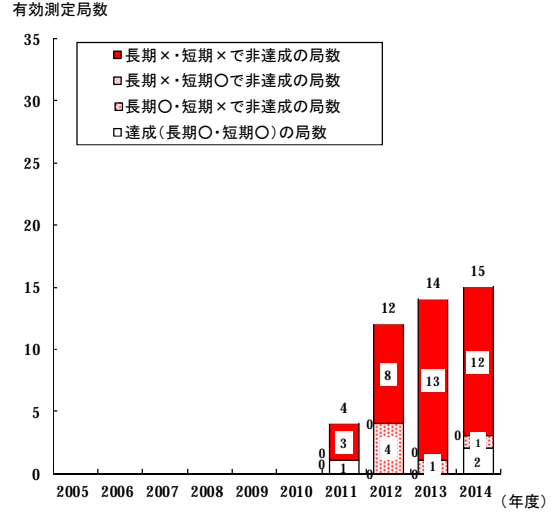
光化学スモッグ発令回数の推移

○微小粒子状物質(PM2.5)については、2014年度は47局中17局で環境保全目標を達成しました。
年平均濃度については、本格的に測定を始めた2011年度以降緩やかな改善傾向となっています。

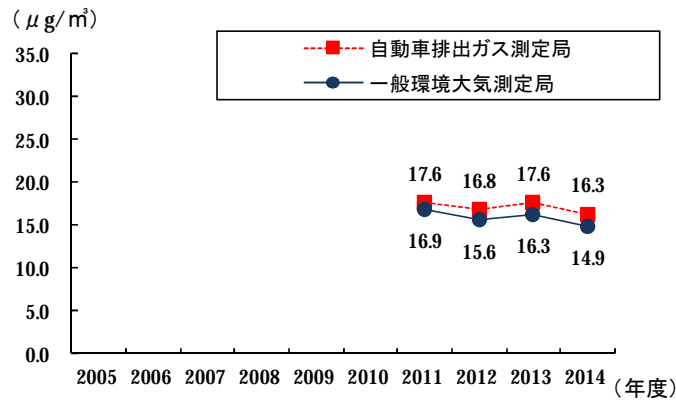
(1)一般環境大気測定局



(2)自動車排出ガス測定局



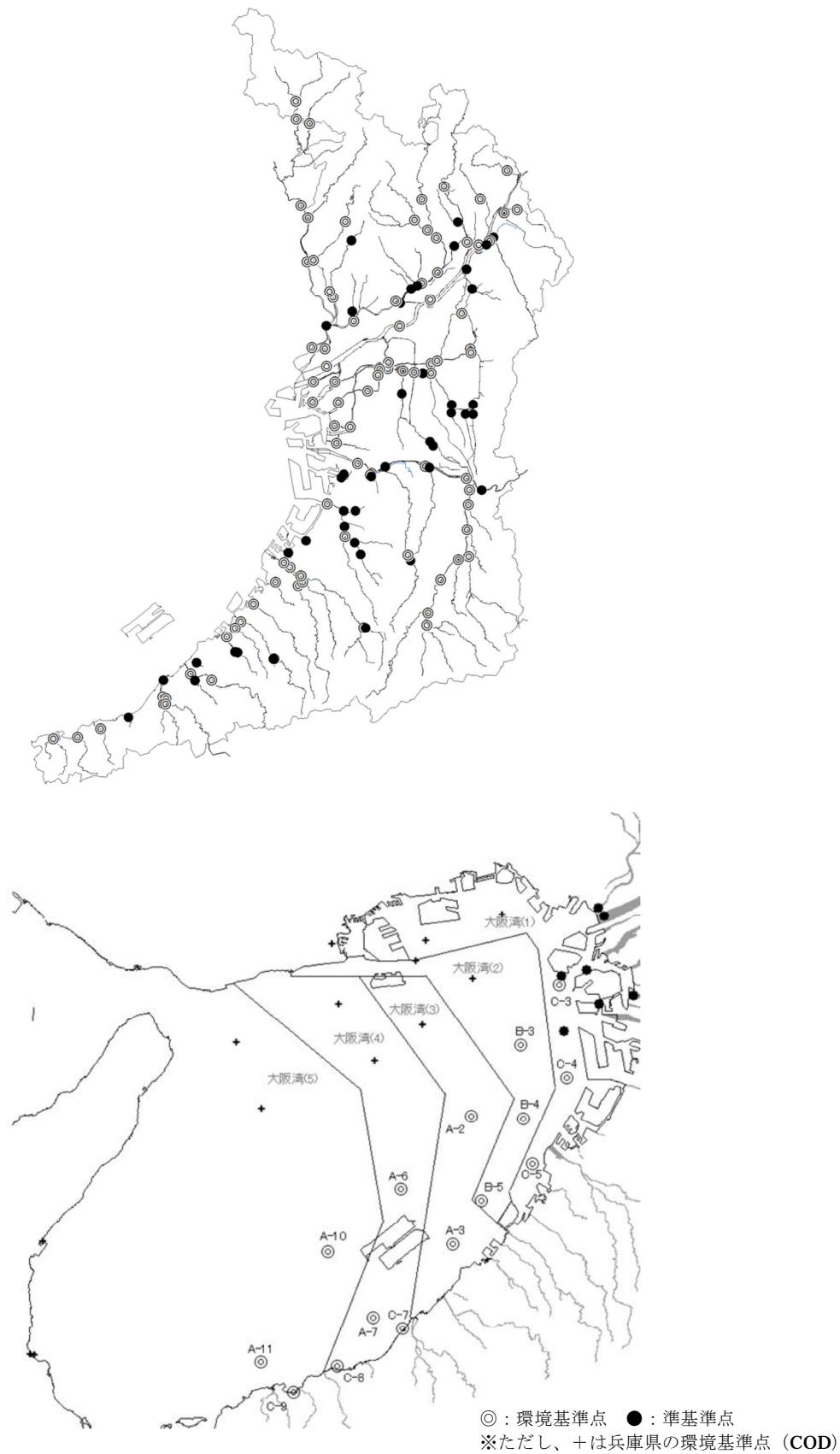
PM2.5の環境保全目標達成状況



PM2.5濃度(年平均値)の推移

4 水環境関係

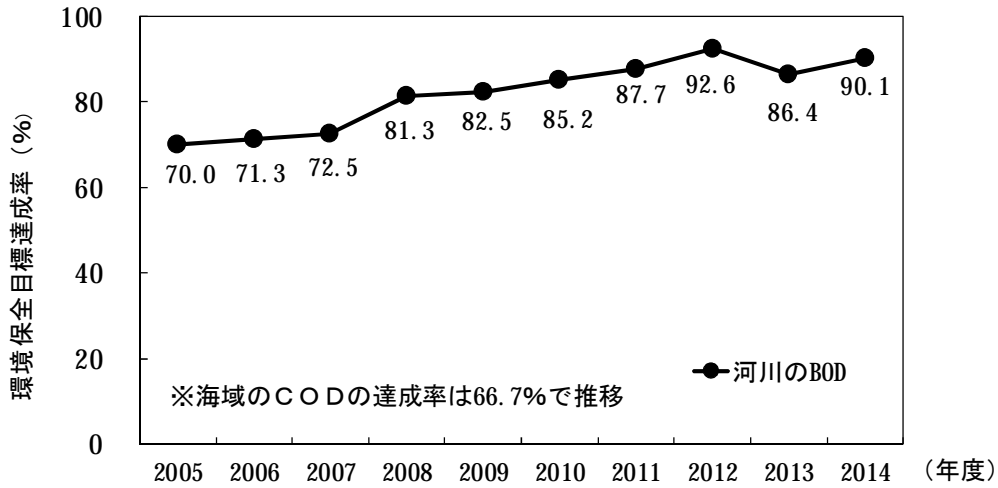
河川については 100 河川 139 地点、海域については 22 地点で水質調査を行いました。



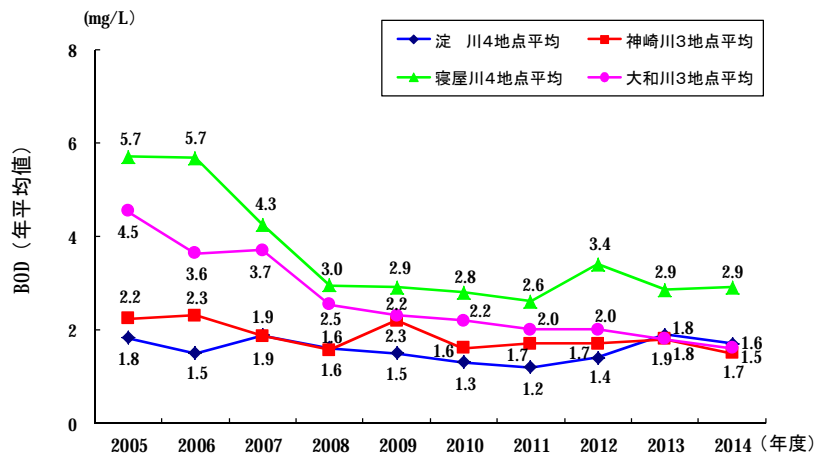
河川及び海域の常時監視地点図

○河川の水質は概ね改善傾向にあり、2014年度におけるBODの環境保全目標達成率は90.1%でした。
 海域の水質については緩やかな改善または横ばいの傾向であり、2014年度におけるCODの環境保全目標達成率は66.7%*でした。

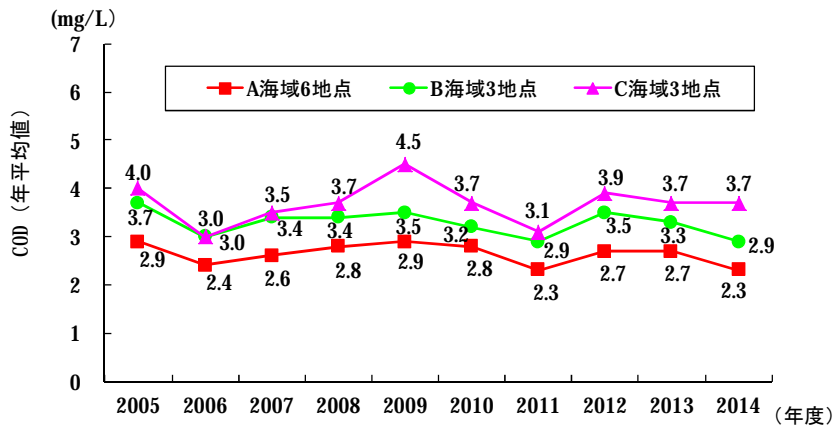
*兵庫県の測定地点を含め水域ごとに評価



河川のBOD及び海域のCODの環境保全目標達成率の推移



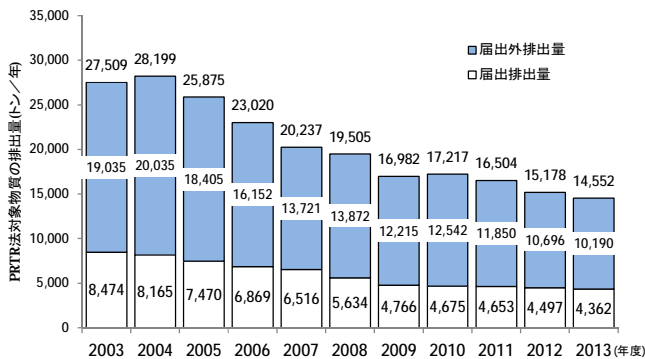
府内主要河川のBOD (年平均値) の推移



大阪湾のCOD (表層年平均値) の推移

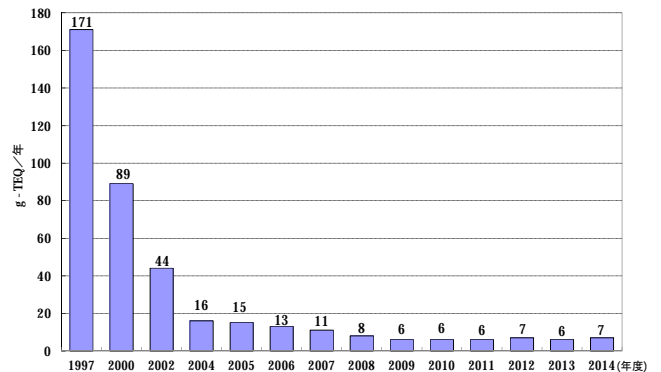
5 化学物質関係

○環境中への化学物質の排出量は概ね減少傾向にあり、ダイオキシン類の排出量は、大きく減少した後、近年は横ばいで推移しています。



府内における化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 対象物質の排出量の推移

(※2010年度から届出対象物質数が354から462に変更されました)



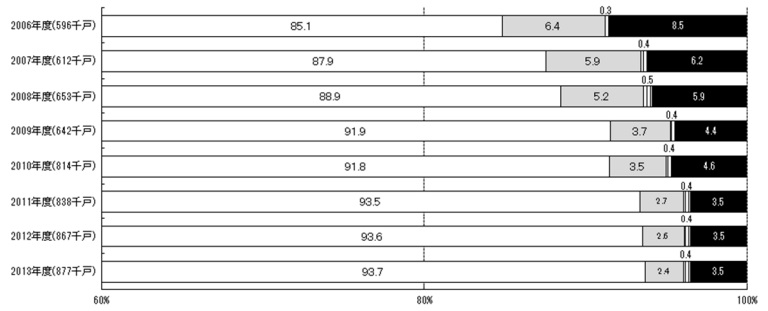
府内でのダイオキシン類の排出量の推移

6 騒音関係

○道路沿道における騒音に係る環境保全目標の達成率は改善傾向にあり、2013年度は昼・夜間ともに基準値以下の住居等の割合は93.7%でした。



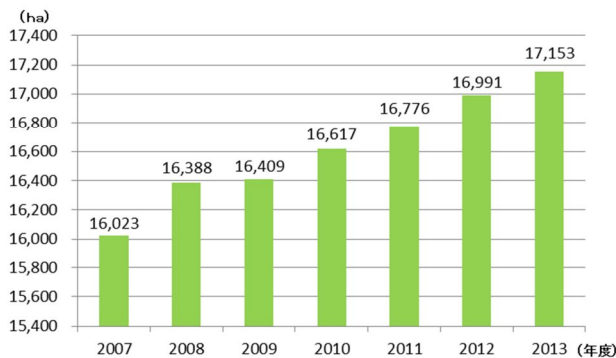
騒音に係る環境保全目標達成状況



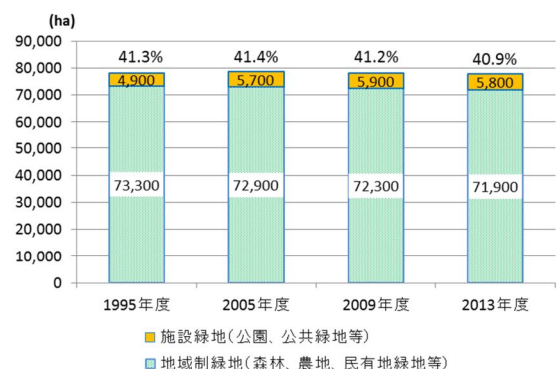
道路に面する地域に係る環境保全目標達成率の推移

7 自然環境

○指定した保安林面積は、17,153haです。また、緑地面積は、府域の約4割を維持しています。



府域の保安林の指定面積の推移



府域の緑地面積の推移

8 立入検査等実施件数

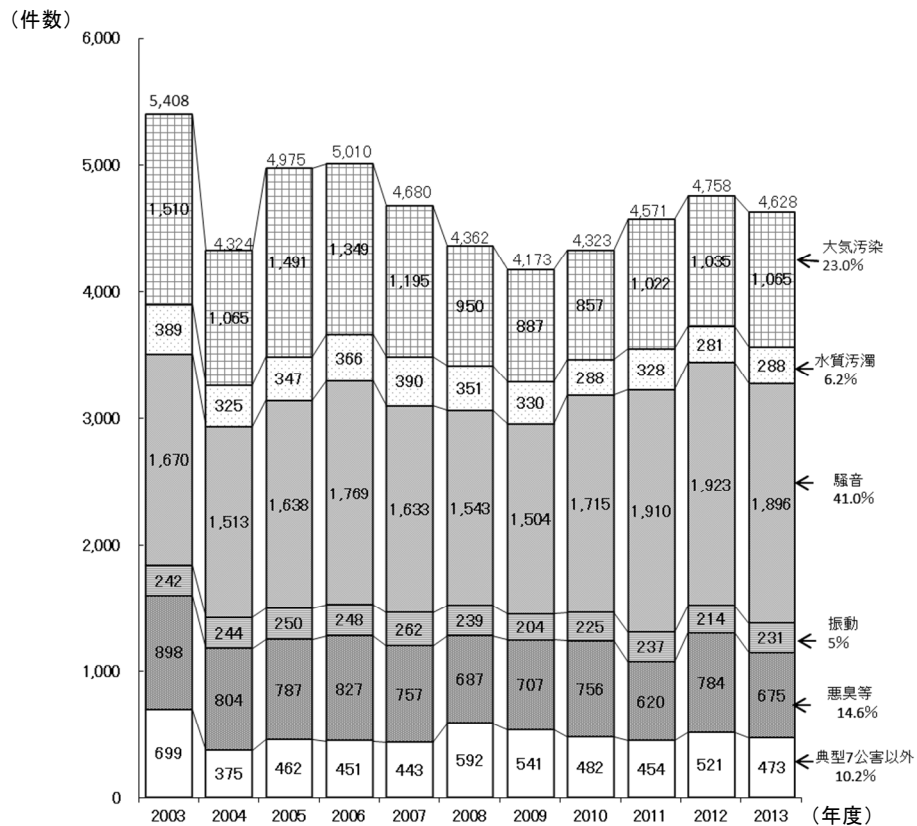
○2014年度に法令等に基づき府が実施した立入検査・指導等の件数は以下のとおりです。

大気（法規制事業所：700 条例規制事業所：704 うち159事業所は法・条例とも規制対象）		
一般大気	事業所への立入検査件数	964件
	法・条例対象施設に係る届出件数	459件
	サンプル採取・分析件数	18件
アスベスト	解体現場への立入検査件数	612件
	アスベストに係る届出件数	152件
	サンプル採取・分析件数	101件
水質（法規制事業所：1,021 条例規制事業所：67）		
	工場・事業場への立入検査件数	963件
	法・条例対象施設に係る申請・届出件数	390件
	サンプル採取・分析件数	360件
交通環境		
	流入車規制のステッカー交付枚数	86,681枚 累計1,288,386枚
	立入検査回数及び立入検査台数	101回 6,718台
土壌汚染		
	法・条例・自主調査指針に基づく調査報告件数	11件
	土地の形質変更届出件数	48件
化学物質		
	法・条例に基づく排出量等の届出件数	854件
	条例に基づく管理計画及び管理目標の届出件数	331件
廃棄物・リサイクル		
一般廃棄物	一般廃棄物処理施設への立入検査件数	29件
	サンプル採取・分析件数（※）	40件
産業廃棄物	産業廃棄物排出事業者等に対する立入検査件数	1,663件
	産業廃棄物排出事業者からの報告徴収件数	14,762件
	産業廃棄物処理業者等に対する立入検査件数	720件
	サンプル採取・分析件数	197件
	自動車リサイクル法に基づく登録・許可業者への立入検査件数	415件
	フロン回収・破壊法に基づく登録業者への立入検査件数	12件

※ 1件の立入検査で複数種類のサンプルを採取している場合があるため、立入検査件数と一致しない。

9 その他

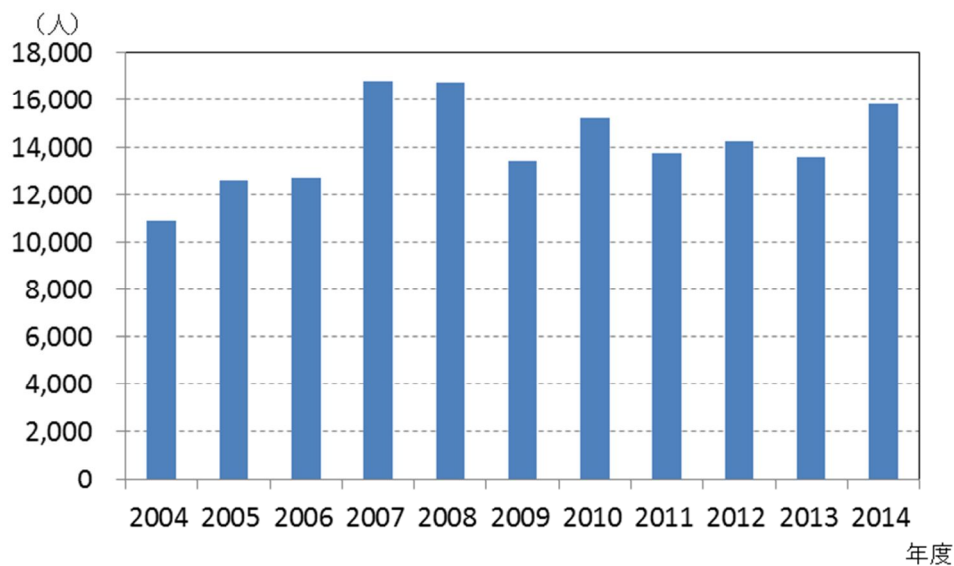
○2013年度に受け付けた苦情件数については、2012年度に比べて2.7%減少し、最も多い苦情は騒音に関するもので苦情全体の41.0%を占めています。



(注) 苦情件数は他機関からの移送分を含む。(公害調整委員会調べ)

苦情件数の推移

○環境情報プラザの利用者数は、近年は横ばいで推移しています



環境情報プラザの利用者数の推移